

1075. Fréchet 束 = 就テ

小笠原 徳次郎 (廣島文理)

區間 $0 \leq t \leq 1$ 上ノ殆ド到ル所有限値ヲトル可測函数 $x(t)$ ノ全体ノ作ル線形空間ニ計量函数 $p(x) = \int_0^1 \frac{|x(t)|}{1+|x(t)|} dt$ ノ導入ニヨリテ生ズル下型空間ハ之ト位相的對等ニナルヤウ ノルムヲ導入シテ Banach 空間タラシムルコトハ不可能デアル。数列ノ空間 (s) = ツイテモ同様。コノ既知ノ事實ヲ結論ノ一部ニ含ムヤウ、半順序線形空間ノ理論ヲ展開スルコトガ目的デアル。

§ 1. Fréchet 束, K_0 型 "正則" Fréchet 束.

ベクトル束ガ Fréchet 束 (簡單ノ下型束) トハ計量函数 $p(x)$ ガ定義セラレ

$$(I) \quad p(x) \geq 0, \quad x=0 \quad \text{トキ} \quad p(x)=0$$

$$(II) \quad p(x+y) \leq p(x) + p(y)$$

$$(III) \quad |x| \leq |y| \quad \text{トキ} \quad p(x) \leq p(y)$$

ヲ満足シ λx ガ λy ヲ, $\lambda > 0$ 時 $\lambda x \leq \lambda y$ ノ函数ト考ヘテ連続且ツ p = 閉シテ完備トナルコトデアル。

補題 1. F -束ハアレキトナスデアル。

$$(証) \quad n \text{ 個ノ } x = \text{ツイテ } 0 \leq nx \leq y \text{ トスル。 } p(nx) \leq p(\frac{1}{n}y)$$

$$\rightarrow 0 \quad \text{ナラ } p(x) = 0 \quad \text{故ニ } x = 0 \quad \text{証終。}$$

補題 2. F -束 F ハ $x+y, x \vee y, x \wedge y$ ハ x, y ノ一樣連続函数デアル。又 $\lambda x, \lambda x$ ノ連続函数デアル。

(証) $|x-y-x'y'| \leq |x-x'| + |y-y'|$ カラ $\rho(x \cup y - x' \cup y') \leq \rho(x-x') + \rho(y-y')$ カラ $x, y = \text{閉スル}$ 様連続性カ判ル。他ノ部分ノ証明ハ略スル。 証終

(註) (I) - (III) カラ補題ノ前半ガ成立ツ。

補題3. $\rho(x_n - x) \rightarrow 0, \rho(y_n - y) \rightarrow 0, x_n \supseteq y_n$ 7
 $\Rightarrow x \supseteq y$ 証終

(註) 補題2カラ 証終

補題4. $x_n \supseteq x_{n+1}$ (或ハ $x_n \supseteq x_{n+1}$), $\rho(x_n - x) \rightarrow 0$ 7 トキ
 $x = \bigvee x_n$ (或ハ $x = \bigwedge x_n$) 7 アル。

(証) 補題3カラ 証終

補題5. F-束デハ計量的收斂ト相對一樣(*)-收斂ト
 ハ同義デアアル。

(証) $0 = \text{收斂スル}$ 場合ヲ考ヘルハ充分。 $\rho(x_n) \rightarrow 0$ ト
 スル。 $\{x_n\}$ 任意ノ部分列ヲ考ヘルトキ更ニソノ部分列
 $\{x_{i_n}\}$ 7 $\rho(n x_{i_n}) \leq \frac{1}{2^n} = \text{ト}$ ル。

完備性カラ $\sum_1^\infty n |x_{i_n}|$ ハ收斂, 之ヲエト量クト $|x_{i_n}| \leq \frac{1}{n} x$
 トナリ定義ニヨリ x_n ハ $0 = \text{相對一樣(*)-收斂スル}$ 。 逆ニ
 x_n 7 $0 = \text{相對一樣(*)-收斂スルト}$ セヨ。 任意ノ部分列カ
 ラ更ニ部分列 $\{x_{i_n}\}$ ガ相對一樣收斂スルヤウニトレバ F-
 束ノ定義カラ $\rho(x_{i_n}) \rightarrow 0$ 。 故ニ $\rho(x_n) \rightarrow 0$ 証終
 次ノ條件 (IV) 7 導入スル。

(IV) $x_n \downarrow 0$ ノトキ $\rho(x_n) \rightarrow 0$

補題6. ベクトル束ガ (I) - (IV) 7 満足シ $\rho = \text{閉}$ シテ完備

ノトキ、計量的収斂ト (*)-収斂が同義ト F-束 = +ル。

(証) $\lambda_n \rightarrow 0$ ノトキ $\lambda_n x \rightarrow 0$ (0)。 $\{\lambda_n\}$ ハ單調列ト考ヘテヨイカラ (IV) = ヨリ $\rho(\lambda_n x) \rightarrow 0$ 。 $x_n \rightarrow x$ (0)トスレバ $|x_n - x| \leq \lambda_n$, $\lambda_n \downarrow 0$ トナル $\{\lambda_n\}$ が存在スル。能マテ (IV) = ヨリ $\rho(x_n - x) \rightarrow 0$ 。補題5ヲ使ハバ本補題ノ成立が判ル。 証終

更ニ條件 (V) ヲ導入スル。

(V) $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots$, $\{x_n\}$ が (0)-有界トイトキハ $\lim_n \lim_p \rho(x_{n+p} - x_n) > 0$

補題7. (I) - (IV) ヲ満足スル σ -完全ベクトル束が完備 (従テ F-束 = +ル) ナルノメノ條件ハ (V) デアル。

(証) X ヲ (I) - (IV) ヲ満足スル σ -完全ベクトル束トスル。 X ヲ完備トセヨ。 $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots = x$ シ $\lim_n \lim_p \rho(x_{n+p} - x_n) = 0$ トスレバ $\rho(x_n - x) \rightarrow 0$ ナル $x \in X$ が存在スル。補題4 = ヨリ $x = \sqrt{x_n}$ トナリ $\{x_n\}$ ハ束的有界 = +ル。

$x = X$ が (V) ヲ満足スルトスル。任意ニ基本列 $\{x_n\}$ ヲ考ヘルト部分列 $\{x_{i_n}\}$ ヲ $\rho(x_{i_n} - x_{i_{n+1}}) \leq \frac{1}{2^n} = +ル$ 。 $\sum_1^\infty (x_{i_n} - x_{i_{n+1}})$ ハ絶対収斂スル。能マテ $x_{i_n} \rightarrow x(0)$ ナル $x \in X$ が存在スル。(IV) = ヨリ $\rho(x_{i_n} - x) \rightarrow 0$ 能マテ $\rho(x_n - x) \rightarrow 0$

証終

“K-空間 = 諾テ” 板垣誌 1060 頁ハ Kuznetsovitchko ノ劇見ヲ尊重シテ “正則性” = 對ニ彼ノ條件ノ引用ニ留メテガ

實際ノ取扱ヒニハ稍不便デアリ。中野氏ハ紙数誌 1069 於“正則性”ニ關スル一注意ヲ與ヘテオラレル。茲デハ次ノ兩ノ條件ヲトル。

○-完全ベクトル束が K_2 型“正則”ニナル條件

(1°) $x_{n,m} \downarrow 0$ ($m \rightarrow +\infty$)ノトキ $x_{n,m_n} \rightarrow 0$ (3) ($n \rightarrow +\infty$)ニナル $\{m_n\}$ ガアル。

(2°) (0)-有界ノ増加超限列 $x_1 < x_2 < x_3 < \dots < x_n < \dots$ ハ可限番集合デアル。

○-完全ベクトル束が K_6 型“正則”ニナル條件

(1°): 上ノ(1°)ニ同ジ

(2°): 上ノ(2°)カラ(0)-有界ヲトル。

(3°): 増加列 $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots = \text{終シ}$ 如何ナル $\lambda_n \downarrow 0$ ヲトルニ $\lambda_n x_n \rightarrow 0$ (0)ニラバ $\{x_n\}$ ハ(0)-有界デアル。

コレ等ノ証明ハ Kantorovitch, *Recueil Math.* 2 (1937)ヲ見レバ殆ンド明カト思ハレルカラ略スル。尚ホ Kantorovitch.ノ所論ガハ“正則”ノ *proper axiom* (紙数誌 1194 頁 (i))ニ於テ無限大要素ノ極限ヲ考ヘルコトハ不專デアル。

マタ此ノ *metric function* ρ ヲ考ヘルトト常ニ $|x| < |y|$ ノトキ $\rho(x) < \rho(y)$ トシテイルガ $\rho(x) \leq \rho(y)$ トシテ差支ヘナイコトハ此ノ所論カラ判ルコトデアル。

(Kantorovitch 上掲, §8 R_2 型空間)

定理1. σ -完全ベクトル束が (I) - (V) を満足すれば
 K_6^- 型 "正則" F-束となる。逆も K_6^- 型 "正則" F-束は
 (I) - (V) を満足する。

(証) 前半の証. X が (I) - (V) を満足する σ -完全ベ
 クトル束とする。 (1°) の証. $x_{n,m} \downarrow 0$ ($m \rightarrow +\infty$) ならば $p(x_n,$
 $m_n) \leq \frac{1}{2^n}$ となるから $\sum x_{n,m_n} \in X$ となるから $x_{n,m_n} \rightarrow 0(0)$.

(2°) の証. 非可附番増加超数列 $0 \leq x_1 < x_2 < \dots < x_n < \dots$
 が存在するとする。適当な正数 ε をとり $p(x_{\alpha+1} - x_\alpha) > \varepsilon$
 となる第二級ノ順序数 $\alpha_1 < \alpha_2 < \dots < \alpha_n < \dots$ が存在する。

$\{x_{\alpha_n}\}$ は (0)-有界となるから $x = \vee x_{\alpha_n}$ となる。

$$\varepsilon \leq p(x_{\alpha_{n+1}} - x_{\alpha_n}) \leq p(x - x_{\alpha_n}) \rightarrow 0$$

となり矛盾が起る。

後半の証. X が K_6^- 型 "正則" F-束とする。 (IV) の証.
 $x_n \downarrow 0$ となる K_6^- 型 "正則" から $x_n \leq \lambda_n u$, $\lambda_n \downarrow 0$ となる
 $u \geq 0$ が存在する。F-束の定義から $p(x_n) \leq p(\lambda_n u) \rightarrow 0$.

(V) の証. X の完備性から 証終

最後一條件 (VI) を導入する。

(VI) $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots$, $\{x_n\}$ が (0)-有界で
 かつ $\lim_{\lambda \downarrow 0} \lim_n p(\lambda x_n) > 0$

定理2. (I) - (VI) を満足する σ -完全ベクトル束は K_6^- 型
 "正則" F-束である。逆も真なり。

(証) 前半の証. X が (I) - (VI) を満足する σ -完全ベ
 クトル束とする。 (1°), (2°) の証は前定理と同じ。 (3°) の証.

$0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots$, 任意, $\lambda_n \downarrow 0$ + ν 正数列 $\{\lambda_n\}$
 が (2) - 有界で + ν $\{x_n\}$ の (2) - 有界で +
 いたす。 (VI) なら $\lim_{\lambda \downarrow 0} \lim_n p(\lambda x_n) > \varepsilon + \nu$ 正数 ε が存
 在する。これから $\lambda_n \downarrow 0$, $p(\lambda_n x_n) > \varepsilon + \nu$ $\{\lambda_n\}$ が存在す
 ること = + ν (IV) の矛盾が起る。

後半の証。 X が K_6 型 "正則" F - 束とす。前定理
 = ν (VI) を示せばよい。 $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots$,
 $\{x_n\}$ が (2) - 有界で + ν = 拘らず $\lim_{\lambda \downarrow 0} \lim_n p(\lambda x_n) = 0$
 とす。 $\lambda_n \downarrow 0$ + ν 任意, 正数列 $\{\lambda_n\}$ を考へる。部分列
 $\lambda_{i_1} < \lambda_{i_2} < \dots$ $\lim_m p(\lambda_{i_m} x_{i_m}) \leq \frac{1}{2^m} = + \nu$.
 $p(\lambda_{i_n} x_{i_{n+1}}) \leq \frac{1}{2^n} + \nu$ から $\lambda_{i_n} x_{i_{n+1}} \rightarrow 0(0)$. 然る =
 $\lambda_{i_{n+1}} < \lambda_p \leq \lambda_{i_n}$ / $\lambda_p x_p \leq \lambda_{i_n} x_{i_{n+1}} \rightarrow 0(0)$ なら
 $\lambda_n x_n \rightarrow 0(0)$. 然らず $\{x_n\}$ の (2) - 有界 = + ν 矛盾が起
 る。

証終

条件 (V), (VI) の $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots$, $\{x_n\}$
 が (2) - 有界で + ν $p(x_n) \rightarrow +\infty$ + ν 条件 = 満足する。
 p が ノルム / ν (VI) の問題, $\{x_n\} =$ 対し $\|x_n\| \rightarrow +\infty$ と
 + ν . 然らず ν (V) の条件が成る。これから K -空間, K^- -
 空間 (紙数誌 1060), 性質が成る事が出来る。例へば

定理 3. K -空間と K_6 型 "正則" Banach 束の同義
 である。

$p(x_n) \rightarrow +\infty = + \nu \varepsilon$, の Kantorowitch, improper
 axiom を満足する "正則" = + ν .

K_b 型, K_b 型 "正則" F -束, 本質的 = 上述 Kantorovich, 所論 *Recueil Math* = 取扱ハレテオロ。

§2. K_b 型 "正則" F -束ノ例

S 空間, (b)空間ハ K_b 型 "正則" F -束ノ例デアロ。新插ト
 $\in /$ 以外 =

例1. Bochner束: ベクトル束 X ガ高々可附番無限個ノ正線形汎函数 $\{F_n(x)\}$ ヲモチ (i) $x_n \downarrow 0$ トキ $F_n(x_n) \rightarrow 0$ ($n \rightarrow +\infty$) (ii) $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots$, $\lim_n F_n(x_n) < +\infty$, 注意, コノトキ $\sqrt{x_n}$ ガ存在スロ。コノ條件ノ成立スルベノトル束 X ヲ Bochner束ト呼ンタ。

今 $f(z) = \sum_1^{\infty} \frac{1}{2^n} \frac{F_n(|z|)}{1+F_n(|z|)}$ ト置クト X ハ (I) - (VI)ヲ満足シ K_b

型 "正則" F -束 = 7ロ。

例2. 可換自己随伴作用素ノ環

H ヲ可分ヒルベルト空間トシ, \mathcal{M} ヲ \mathcal{M} ノ各作用素ト可換ナ有界線形作用素ノ全体 \mathcal{M}' ト可換ナ有界自己随伴作用素ノ作ル環, \mathcal{R} ヲ \mathcal{M}' ト可換ナ自己随伴作用素 (必ズシモ有界デナシ)ノ全体トスロ。 \mathcal{M} ハ完全環束 = 7ロ。(1)束論的証明ガ吉田氏紙談話 1061 = 興ハラレテオロ。尚コノ証明ハ中野氏 *Proc. Phys-Math. Soc. Japan* 23 (1941) 511頁ノ定理カラモ出来ル)。恒等的作用素 I ガノトナレ換 \mathcal{M} ヲ表現ゴール空間ノ連続函数ヲ表現スレバ \mathcal{M} ハ有界連

連続函数ノ全体ヲ表現サレル。凡ハ第一種原素ヲ除イテ有限子
 集ヲトル連続函数ノ全体ヲ表現サレルカラ凡ハ環ニナル。
 $\{f_n\}$ f_y ノ單位球ニ於テ稠密ナ可附番列トナル。 $A \in \mathcal{A}$
 ニ對シ

$$\rho(A) = \sum_1^{\infty} \frac{1}{2^n} \left\| \frac{|A|}{1+|A|} f_n \right\|^2$$

ト置ケバ \mathcal{A} ハ K_0 型 "正則" F -束ニナル。此内テノ $\rho = 0$
 ニ收斂ト半順序ニヨル收斂ノ關係ヲ詳シク見ルニハ紙雜誌
 1021ヲ導入シテ廣義ノ (0) -收斂, $(*)$ -收斂ヲ用フルノが
 便利デアル。

§3. "正則"ベクトル束ト實函数ニヨル忠實ニ表現

實函数ニヨルベクトル束ノ線形-束- (準)同型表現ニ関
 スル "ベクトル束ノ表現ニ関スルニ三ノ注意" 紙雜誌(242号?)
 ノ結果ヲ一部拡張スル。

定理1. K_0 型 "正則"ベクトル束 L ニ於テ正規イデマ
 ルノ作ルブール代数 N が原子的要素ヲ含マナイトキ L ノ實
 数空間 \mathbb{R} 上ノ *non-trivial* ナ準同型表現ハ存在シナイ。

(証) $\xi(x)$ ナ *non-trivial* ナ準同型表現が與ヘラレ
 ルトスル。 $\xi(e) = 1$ ナル正要素 e ヲトリ主イデマ $\rho(e)$
 ヲ考ヘル。 $L = \rho(e)$ トレテ一般性ヲ失ハナイ。 e が1トナ
 ル様 L ヲ表現バール空間 Ω 上ノ連続函数ヲ表現スル。コノ
 トキ Ω ノ一氣 f_0 が定マリ $\xi(x) = f_x(f_0)$ トナル。

$f_\alpha(p_0) = +\infty$ となる、存在を示せばよい。 $\{e_\alpha\}$ が $e = \text{閉}$
 する特性要素が $a(e_\alpha) \in p_0$ (或は $p_0 \in a^*(e_\alpha)$) とする。
 $\{e_n\}$ が $\bigwedge e_n = 0$ となる $\{e_\alpha\}$ 、可附番部分集合とする。
 $e_{n+1} < e_n$, $e_n \leq \frac{1}{2^n} u$ となる正要素 u 、存在を假定してよい。
 (適當な部分列を取ればよいから)。 $x = \sum e_n = \text{數シテハ}$
 $f_\alpha(p_0) = +\infty$ とする。 証終

定理2. K_6^- 型 "正則" ベクトル束 L が實函数 = ヨリ忠
 實 = 同型表現されるための条件は正規イデアルの作れ方
 代数 N が原子的なレコト換言レベル L が列空間 (必ずしも可
 附番でない) となることである。

(証) 前定理から殆ど自明。列空間の意味は $\{e_\alpha\} \subset L$ が
 存在して $x = \sum \lambda_\alpha e_\alpha$ (可附番値、 λ_α が 0 でない) の形 = 書か
 れることである。

定理2から實函数 = ヨル忠實 + 表現 $\exists \psi$ ($\pm\infty$ をとり
 得る許す) K_6^- 型、 K_6 型 "正則" F -束、 K^- , K -空間
 への $e \in$ 列空間 = なる。

定理3. K_6^- 型 "正則" ベクトル束 L が単位 e を含み
 要素が $e = \text{閉}$ して有界、かつ L の有限次元である。

(証) $e = \text{閉}$ する特性要素全体、完全ブール代数 A と
 する。 A が有限次元であることと A の互に独立な要素からな
 る部分集合が有限集合となることと同義。今 $\{e_n\}$ とし独立な
 要素 e_n をとり列が e_n と $\sum_{m>n} e_m$ とする $a_n \downarrow 0$ 。
 故に $a_n \leq \lambda_n u$, $\lambda_n < 0$ となる正要素 u が存在する。明か u の

$e = 0$ 開シテ有界デナイ。

証終

定理3カラ例へバ河田氏数物會誌16 (昭和十七), 168
頁定理(11.3), (11.4)ノ別証が得ラレル。(抽象(AE)及B(AM)
空間ガ Banach 空間トシテ正則ノトキ有限次元ニナルトイ
フ定理)。

§4. F-束ト Banach 束

補題1. F-束ガ位相的對等トナルヌウ $\|\cdot\| = \|\cdot\|$
Banach 空間ニナルトラバ, $\|\cdot\|$ ヲ適當ニトルト Banach
束ニナル。

(証) F-束 X ガ $\|\cdot\|$ デ Banach 空間ニナルト
スル。正數 $\delta_1 < \delta_2 < \delta_3$ $\forall \|x\| \leq \delta_1 \rightarrow \rho(x) \leq \delta_2 \rightarrow \|x\| \leq \delta_3$
ガ常ニ成立ツヌウニトル。 $\|x\|_1 = \text{l. u. b. } \|x\| \text{ トスレバ } \|x\|_1,$
 $\|x\|_1 = \sup_{\|x'\| \leq \|x\|} \|x'\|$
ハ $\|\cdot\|$ トナリ $\|x\|_1 \leq \|x\|, \leq \frac{\delta_3}{\delta_1} \|x\|$ 。故ニ $\|x\|_1 = \|\cdot\|$ X ハ
Banach 束ニナル。(証)

補題2. $K_0(K_0^-)$ 型“正則”F-束ガ位相的對等トナルヌウ
 $\|\cdot\|$ デ Banach 空間ニナルトラバ, $\|\cdot\|$ ヲ適當ニトルト
 $K(K^-)$ -空間ニナル。

(証) 前補題ヲ使ツテ。

証終

定理1. Banach 束ガ單位 e ヲモツ環束 (e ハ束的及
ビ環單位, $x \geq 0, y \geq 0$ ノトキ $xy \geq 0$)ノトキ任意ノ要
素ハ $e = 0$ 開シテ有界デ, $\|\cdot\|$ ヲ適當ニトルト $\|e\| = 1,$
 $\|xy\| \leq \|x\| \|y\|$ トラシメ得ル。且ツカスル $\|\cdot\|$ ハ單次的

二定マロ。

(証) $x \neq 0$ (或ハ $y \neq 0$) の函数ト考ヘル。

$\|x_n - x\| \rightarrow 0$ ノトナ x_n ハ $x =$ 相對一様 (*) - 收斂, 従テ $x_n y$ ハ $x y =$ 相對一様 (**) - 收斂スル。故ニ $\|x_n y - x y\| \rightarrow 0$ 。
コレカラ Dunford ノ定理, 或ハエツト直接ニハ Gelfand
ノ方法ヲ $\|e\| = 1, \|xy\| \leq \|x\| \|y\|$ ナル Banach 束ナル様
ノ μ ガ定メラレル。 $\|x\| < 1$ ナル $x \geq 0$ ガ $e =$ 關シテ有界
ヲイハバヨイ。 e ヲ 1 ナル様表現スルコトニヨリ, x 率 e ト
スレバ $\|x^n\| < \|x\|^n \rightarrow 0$ ナルニ拘ラズ, $x^n \geq a > 0$ ナル
 a ノ存在ガ判ル。任意ノ $x =$ 對シ $\|x\| = g. l. b. (\lambda; |x| \leq \lambda e)$
トスレバ $\|x\|, e \|e\| = 1 \|xy\|, \leq \|x\|, \|y\|$, ヲ満足
シ $\|x\| \leq \|x\|$, ガ成立ツ。アル $x =$ 對シ $\|x\| < \|x\|$, トスレバ
 $x > 0, \|x\| = 1$ トシテヨイ。 $\|x^n\| < \|x\|^n \rightarrow 0 =$ 拘ラズ $\|x^n\| = 1$
トナリ矛盾ガ起ル。 証終

定理 2. $K(K^-)$ - 空間ガ環 e ヲモツ環束ノトナ有限
次元デアラフ。

(証) 前定理ノトヨリ定理 3 カラ。 証終

コレニヨリ S 空間, (Δ) - 空間ハ Banach 空間ニナラ
ナイコトガ判ル。 (何者 Banach 空間ニナレバ補題 2 ニヨ
リ K - 空間トナレカラ定理 2 ニヨリ有限次元デアレバナラフス)
或ハコレヲスケ判定ヨリ来ル形ニスルナラバ

定理 3. K_0 型 (K_0 型) 正則 F - 束ガノルムヲ適當ニ
トツテ Banach 空間ニナル條件ハ有限次元トナルコトデ

74.

(証) 補題2ト前定理カラ.

証終

§5. 其ノ他ノ簡單ト注意

補題1. K -空間ガ單位 E ヲモットキ \forall 共軛 Banach

束 E 單位 $F \in \mathcal{V}$.

(証) 略.

補題2. K -空間ノ 共軛空間ガ單位 F ヲモットキ \forall K -空間ハノルムノ ッケカヘテ B_2 空間ニナル.

(証) F ヲ 共軛空間ノ 單位トスレバ新シイノルム $\|x\|_F$ ヲ $\|x\| + F(\|x\|)$ トスレバヨイ.

補題3. Banach空間ガ Bochner 束トキ抽象 L -空間ニスルコトガ出来ル.

次ニ \mathcal{L} 空間デハ non-trivialト連続線形汎函数ノ存在シトイ, コノコトヲ知ラレタ事ヲ結論スルマツト束論的構成ヲマツテ見ル.

定理1. L ヲ K_0 型"正則"ベクトル束デ正規イデマールノ完全ブール代数ガ原子的要素ヲ含マズ且ツ $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq \dots = \text{對シ } \forall (\rho_n \wedge m\mu) = m\mu > 0$ トイ $\mu \in L_1$ ガ存在シトイトキニ限リ $\forall x_n \in L$ トスル. コノトキ non-trivialト(0)-連続線形汎函数ハ存在シトイ.

(証) F ヲ non-trivialト正線形汎函数トシマツトキ

矛盾の起るコトヲ示セバヨイ。正要素 e ヲ適當ニトレトシイ
 デマル $\alpha(e) = 0$ 於テ $F(|x|) = 0$ ノトキ $x = 0$ 且ツ $F(e) > 0$
 ナラシナルコトが出来る。故ニ $L = \alpha(e)$ トシテ論ヲ差支
 へナイ。 $\|x\| = F(|x|)$ ト定メルト定理ノ條件カラ L ハ K -空
 間ニナル。一方表現ノ通シヲ考ヘルト L ハ環束ニナル。§4 定
 理 2 =ヨリ矛盾が起ル。

終結